

## 第2章 本市の概況

### 2 - 1 位置および地勢

#### < 位置 >

本市は、北大阪地域の東部（淀川右岸の三島平野の西南部）にあり、大阪都心部から北東約10キロメートルに位置しています。地形は、東西に6km、南北に5kmのL字型で、市域面積は14.87km<sup>2</sup>となっており、東は高槻市、北は茨木市、西は吹田市と大阪市、そして南は淀川を挟んで寝屋川市と守口市に接しています。



図2 - 1 本市の位置

#### < 地勢 >

本市は、山がない平坦（海拔 3m ~ 14m）な地形となっており、市域中部には一級河川の安威川が東西に流れ、その他、大正川、山田川などの河川が流れています。また、市域の北部ではJR東海道本線と阪急京都線、南部ではJR東海道新幹線が東西に、そして大阪モノレールが南北にそれぞれ横切っており、また、市域の中央を南北に近畿自動車道と府道大阪中央環状線が走っており、市域が細かく分断されている状況にあります。

### 2 - 2 沿革および市域の変遷

#### < 沿革 >

本市は、昭和初期まで純農村地帯でしたが、昭和初期に鉄道駅（現JR千里丘駅、阪急正雀駅）が開業し、また、府道大阪高槻京都線の整備により、安威川以北の都市化や人口増加が進行しました。また、昭和10年代と30年代の2期にわたり工場の進出ブームが起こり、昭和30年代には、国鉄（現JR）千里丘駅、阪急正雀駅周辺に商店街が形成され、昭和36（1961）年の府道大阪高槻線の完成を期に、安威川以南の開発も進行しています。

#### < 市域の変遷 >

昭和31（1956）年に味舌町・味生村・鳥飼村が合併し、本市の前身となる三島町が誕生し、その後、昭和32（1957）年、35（1960）年の2回にわたり旧三宅村の一部を編入し、ほぼ現在の市域が形成されました。そして、昭和40（1965）年の国勢調査で人口が43,479人となり、昭和41（1966）年11月に大阪府下28番目の都市として本市が誕生しました。

## 2 - 3 総人口と高齢者数、身体障害者数など

### <総人口および世帯数>

平成 15 年 10 月 1 日現在、本市の総人口は 84,990 人、総世帯数は 33,454 世帯となっています。

人口は、昭和 41(1966)年の市制施行以来昭和 50 年代の半ばまで急増していましたが、その後横這い傾向となり、昭和 63(1988)年の 87,668 人をピークに近年では年々微減の傾向にあります。一方、世帯数は、1~2 人世帯が増加している状況を背景に、人口が減少している近年においても、増加の傾向にあります。

また、人口動態を見ると、昭和 48(1973)年をピークに転入人口が減少しており、昭和 61(1986)年以降では、転出人口が転入人口より多くなっています。近年では、自然増人口(出生者数 - 死亡者数)が年 500 人程度ある一方、これを上回る社会減人口(転出者数 - 転入者数)があるため、総人口が減少する傾向にあります。

表 2 - 1 人口の推移

(各年10月1日現在)

年次	世帯数	人口 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	世帯人口 (人/世帯)
昭和41(1966)	13,400	46,335	2,997	3.46
45(1970)	17,609	59,758	3,806	3.39
50(1975)	22,984	76,704	4,882	3.34
55(1980)	27,046	80,684	5,136	2.98
60(1985)	28,730	86,332	5,495	3.00
平成02(1990)	30,145	87,453	5,881	2.90
07(1995)	31,922	87,330	5,873	2.74
12(2000)	32,432	85,065	5,721	2.62
16(2004)	35,261	85,495	5,884	2.42

注1) 人口密度の基となる市域面積は国土地理院調べ。

(資料:統計要覧、市民課)

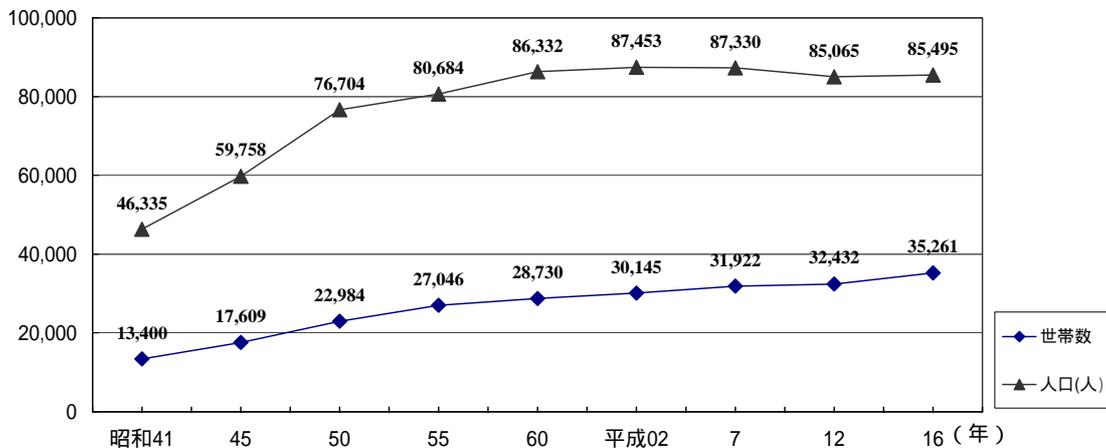


図 2 - 2 人口の推移

< 高齢者人口 >

本市の高齢者数は、平成 16 年 10 月 1 日現在で 11,922 人となっており、高齢化率 13.9% となっています。このうち、65 歳以上 74 歳以下の前期高齢者が 7,602 人（高齢者のうちの 64%）、75 歳以上の後期高齢者が 4,320 人（高齢者のうちの 36%）となっています。

高齢者数は、総人口が減少傾向にある近年においても年々増加しており、今後もより一層の少子高齢化の進行に伴い、この増加傾向に変化はないものと考えられます。

表 2 - 2 年齢別人口構成

(各年10月1日現在)

区 分	昭和55(1980)	昭和60(1985)	平成02(1990)	平成07(1995)	平成12(2000)	平成16(2004)
総数(人)	80,684	86,332	87,453	87,330	85,065	85,495
年少人口(人) (0～14歳)	22,466	21,008	16,383	13,333	12,136	12,249
構成比(%)	27.8	24.3	18.7	15.3	14.3	14.3
生産年齢人口(人) (15～64歳)	53,963	60,271	64,797	66,144	63,037	61,324
構成比(%)	66.9	69.8	74.1	75.7	74.1	71.7
高齢者人口(人) (65歳以上)	4,098	5,031	6,112	7,739	9,838	11,922
構成比(%)	5.1	5.8	7.0	8.9	11.6	13.9
前期高齢者人口(人) (65～74歳)	-	-	3,750	4,774	6,242	7,602
構成比(%)	-	-	4.3	5.5	7.3	8.9
後期高齢者人口(人) (75歳以上)	-	-	2,362	2,967	3,596	4,320
構成比(%)	-	-	2.7	3.4	4.2	5.1
高齢化率(%)	5.1	5.8	7.0	8.9	11.6	13.9

注) 年齢の不詳は総数に含む。

(資料:統計要覧、市民課)

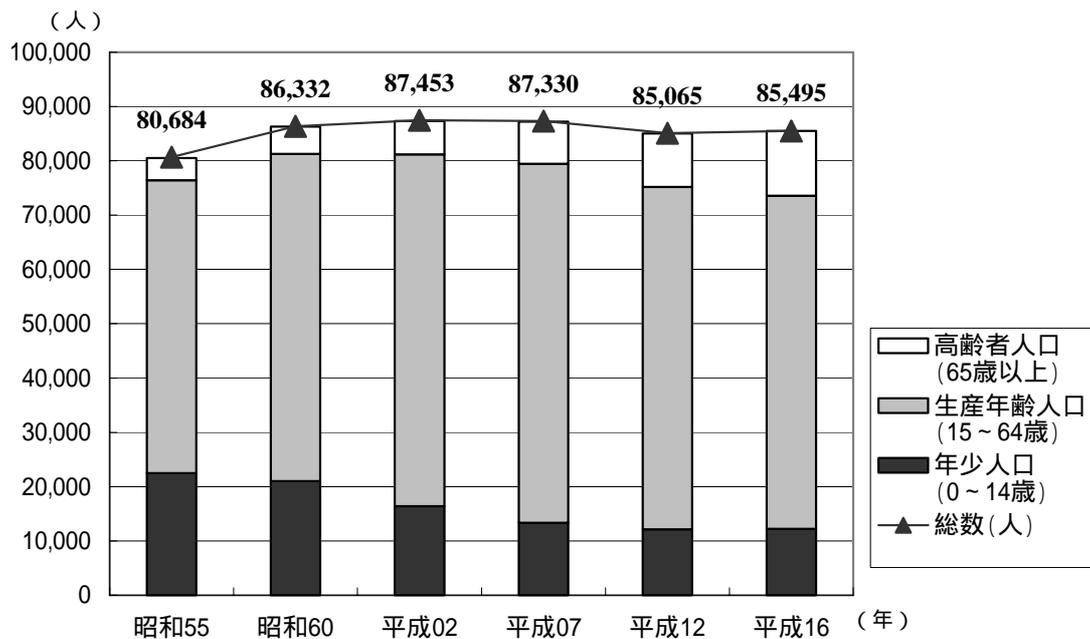


図 2 - 3 年齢別人口構成

< 障害者数 >

本市の身体障害者手帳所持者は平成 15(2003)年度現在で 2,218 人、療育(知的障害者)手帳所持者は 364 人、精神障害者保健福祉手帳所持者は 163 人となっています。これらを合計した手帳所持者数は延べで 2,745 人となり、これは本市総人口の約 3.3%を占めています。

身体障害者手帳所持者の障害別内訳(平成 15 年)を見ると、最も多いのが肢体障害で 57.4%、次いで内部障害の 23.9%、視力障害の 8.9%となっています。

これら手帳所持者の数は、近年、年々増加の傾向にあります。また、平成 5(1993)年に改正された障害者基本法で精神障害者が新たに障害者として位置づけられたことや、平成 7(1995)年に精神保健法が精神保健福祉法(略称)に改正され、それまでの保健医療対策に加えて平成 14(2002)年から市町村での精神障害者生活支援事業が始められたこと等により、今後とも、その増加傾向に変化はないものと考えられます。

表 2 - 3 身体障害者手帳等所持者の状況

(各年5月1日現在、単位:人)

	平成02(1990)	平成07(1995)	平成12(2000)	平成15(2003)
視力障害	207	185	191	197
聴力障害	150	163	186	186
言語障害	22	19	34	30
肢体障害	899	955	1,141	1,274
内部障害	223	297	451	531
身体障害計	1,501	1,619	2,003	2,218
知的障害	-	-	326	364
精神障害	-	-	85	163
手帳所持者総計	1,501	1,619	2,414	2,745

注1) 延べ人数を示す。

注2) 「知的障害」は療育手帳保持者、「精神障害」は精神障害者保健福祉手帳所持者の数をそれぞれカウントしている。

(資料:統計要覧、高齢者障害者福祉課)

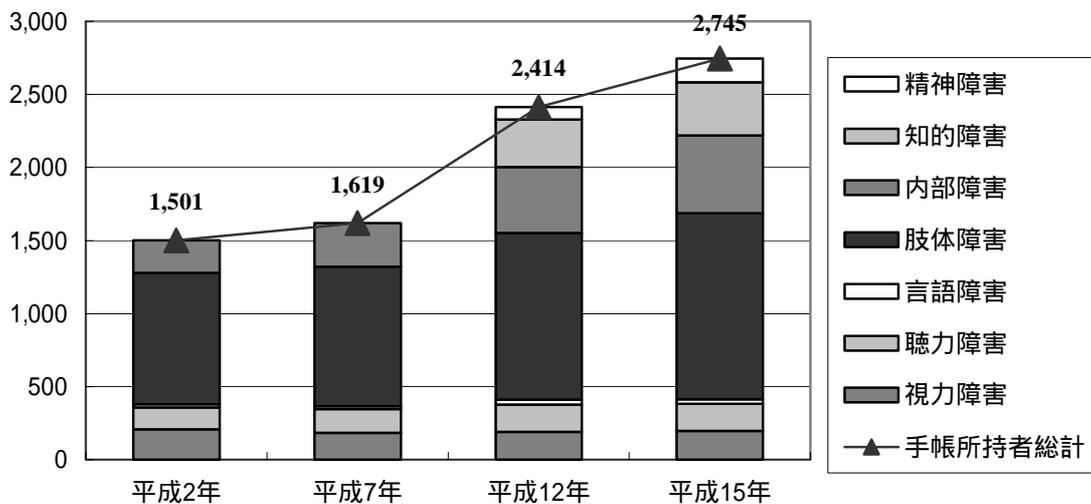


図 2 - 4 身体障害者手帳等所持者の状況

このように、本市の総人口は近年減少傾向にありますが、高齢者や身体障害者といったいわゆる社会的弱者の数は大きく増加しています。

本市が今後も活力にあふれた魅力ある都市としてあり続けるためには、こうした社会的弱者の方々をも含めた全ての人に配慮されたやさしいまちづくりを行っていくことが望まれます。

## 2 - 4 都市施設の特徴

### (1) 交通施設

#### < 道路 >

摂津市都市計画マスタープランにおいては、交通施設や公共施設等生活に必要な様々な機能が集まる拠点である「都市核」を結び市内の交通ネットワークを作る幹線道路（道路軸）として、府道大阪中央環状線および府道十三高槻線を中心に図2-5のとおり位置づけられています。

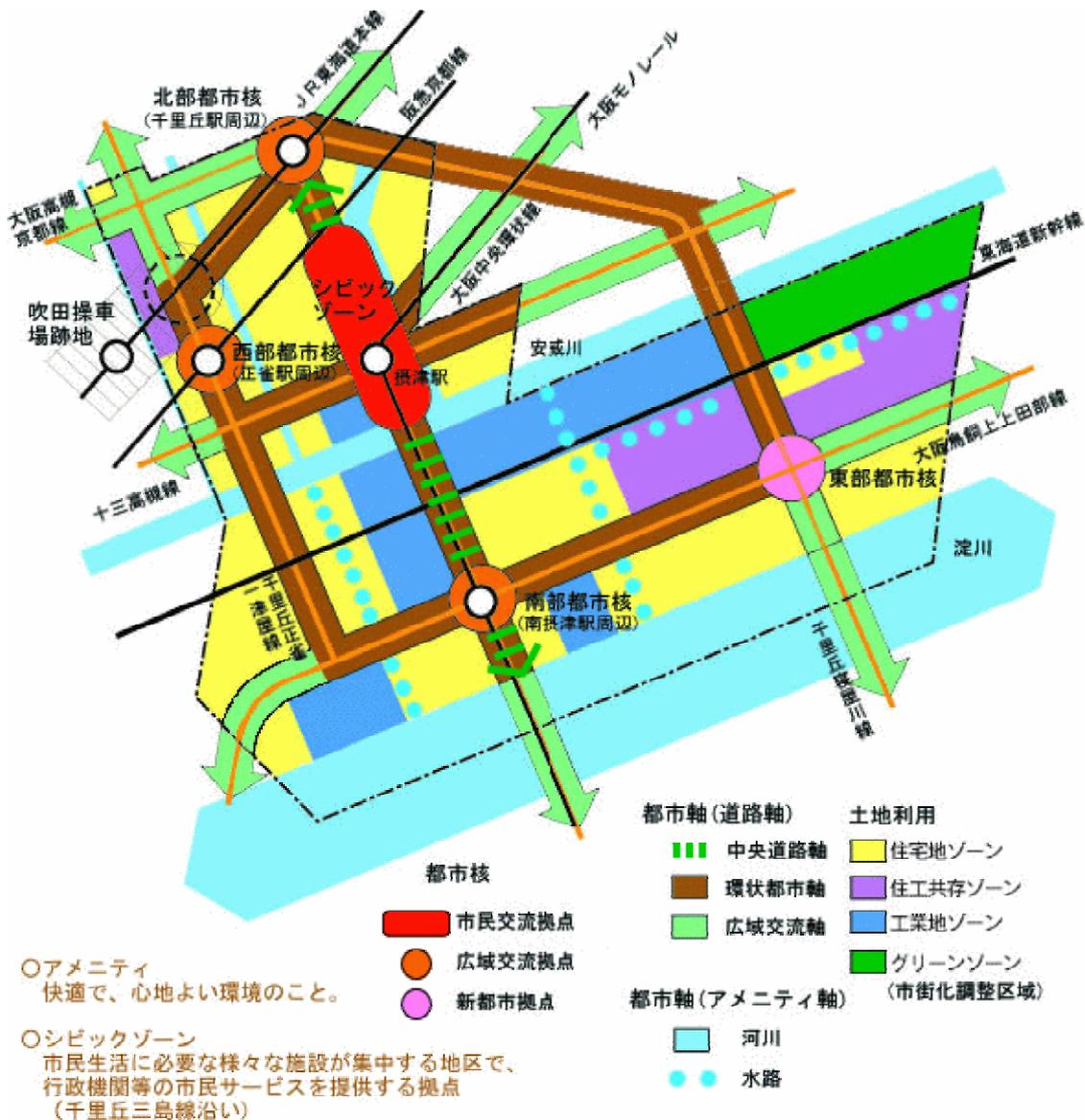


図2-5 市内の幹線道路（道路軸）

(資料：摂津市都市計画マスタープラン（平成12年2月）)

市内に一般国道はなく、高速自動車国道として近畿自動車道天理吹田線が府道大阪中央環状線に並行しています。その他、市内の府道および市道の現況は、表2 - 4および表2 - 5に示すとおりとなっています。

表2 - 4 府道の現況

平成14年4月1日現在

道路名	実延長(m)	面積(m <sup>2</sup> )	舗装済延長(m)	舗装率(%)
十三高槻線	1,918	63,980	1,918	100.0
大阪高槻京都線	1,470	24,256	1,470	100.0
大阪中央環状線	3,180	119,250	3,180	100.0
茨木摂津線	356	8,759	356	100.0
大阪高槻線	5,237	88,860	5,237	100.0
八尾茨木線	1,351	54,279	1,351	100.0
正雀停車場線	1,907	15,598	1,907	100.0
正雀一津屋線	3,818	34,244	3,818	100.0
沢良宜東千里丘停車場線	935	6,850	935	100.0
鳥飼八町富田線	1,083	5,767	1,083	100.0
茨木寝屋川線	1,022	23,957	1,022	100.0
計	22,277	445,800	22,277	100.0

注) 昭和62年4月1日より八尾茨木線の一部を建設省へ返還、一部を摂津市へ引き継ぎとする。

平成6年4月1日付けで、正雀停車場線の一部を摂津市へ移管。

(資料:統計要覧、市民課)

表2 - 5 市道の現況

各年4月1日現在

年	実延長(m)	面積(m <sup>2</sup> )	舗装済延長(m)	舗装率(%)
平成11(1999)	188,791	1,120,876	179,990	95.3
平成12(2000)	188,825	1,203,195	180,298	95.5
平成13(2001)	189,975	1,208,364	181,280	95.4
平成14(2002)	190,987	1,213,230	182,297	95.4
平成15(2003)	191,937	1,220,667	183,739	95.7

注) 延長には橋梁、自転車歩行者専用道路を含む。

(資料:統計要覧、市民課)

都市計画道路は17路線(大阪モノレール専用道を除く)、延長30.61kmが計画されており、平成16年3月現在での整備率は58.6%となっています(表2 - 6、図2 - 6参照)。

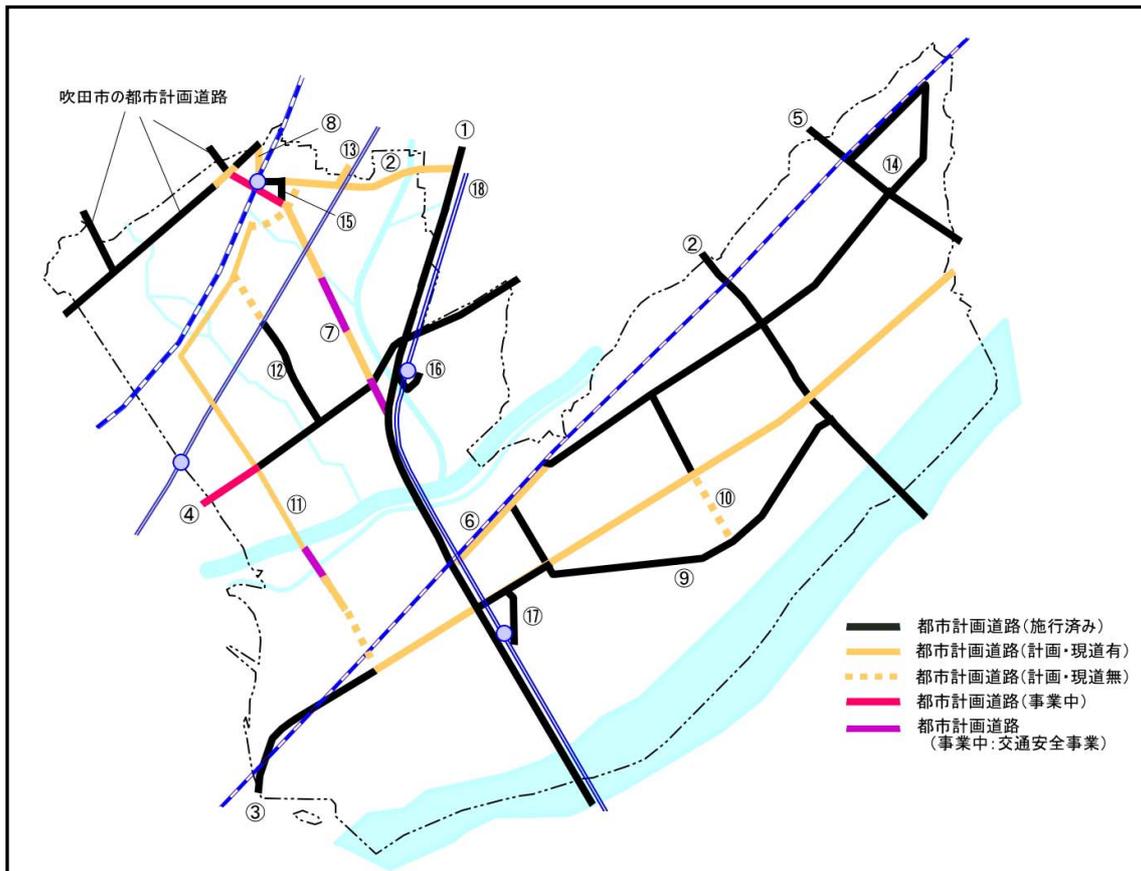
表2 - 6 都市計画道路の整備状況

平成16年3月末日現在

	計画延長	事業済	施工中	未着手
合計17路線	30,610m	17,940m	1,620m	11,050m
進捗率	-	58.6%	5.3%	36.1%

(資料:摂津市ホームページ)

地域別に見ると、安威川以北の地域で未整備の区間が多く見られます。また、安威川以南の地域では、鳥飼地区において土地区画整理事業が施行されたこともあり、道路交通網の整備が比較的進んでいる状況にあります。



	幅員(m)	延長(m)	広場面積(m <sup>2</sup> )	整備状況
大阪中央環状線	60	3,740		完了
千里寝屋川線	25 ~ 45.5	2,510	千里丘東駅前 4,400	1,400m整備済
大阪鳥飼上上田部線	12 ~ 20	5,400		1,510m整備済
十三高槻線	35 ~ 45.5	2,300		1,970m整備済、330m事業中
茨木寝屋川線	20 ~ 36	1,010		完了
新在家鳥飼上線	12 ~ 16	3,460		2,660m整備済
千里丘三島線	16 ~ 31	2,030	千里丘西駅前 3,400	940m事業中
千里丘駅前線	16	120		未整備
鳥飼下新在家線	12	2,500		完了
開藤森線	12	1,010		540m整備済
千里丘正雀一津屋線	12 ~ 20	3,460		350m事業中
坪井味舌線	12	1,080		690m整備済
太中線	12	70		未整備
鳥飼上八町線	10 ~ 14	1,420		完了
駅前1号線	14	80		完了
摂津駅前線	12	100	摂津駅前 1,300	完了
南摂津駅前線	16	320	南摂津駅前 2,500	完了
		30,610		整備率 58.6%
大阪モノレール専用道		3,480		完了

平成16年3月末現在の整備状況

図2 - 6 都市計画道路の整備状況  
(資料: 摂津市都市計画マスタープラン(平成12年2月)、摂津市ホームページ)

近年における交通事故の発生状況は表 2 - 7 のとおりで、件数、死傷者ともほぼ横這いの状態が続いています。

表 2 - 7 交通事故の発生状況

	平成10(1998)	平成11(1999)	平成12(2000)	平成13(2001)	平成14(2002)
事故件数(件)	617	605	554	626	632
死者(人)	6	5	4	8	3
傷者(人)	691	708	649	708	730

注) 物損事故は含まず。

(資料:統計要覧、市民課)

< 公共交通機関 >

鉄道

市内にはJR東海道本線の千里丘駅、阪急京都線の正雀駅が設置されており、これらにより、神戸・大阪及び京都方面に連絡しています。また、これら東西方向の交通に対し、大阪空港と門真市を結ぶ大阪モノレールが市域を南北に走っており、市内に同モノレール摂津駅と南摂津駅が設置されています。

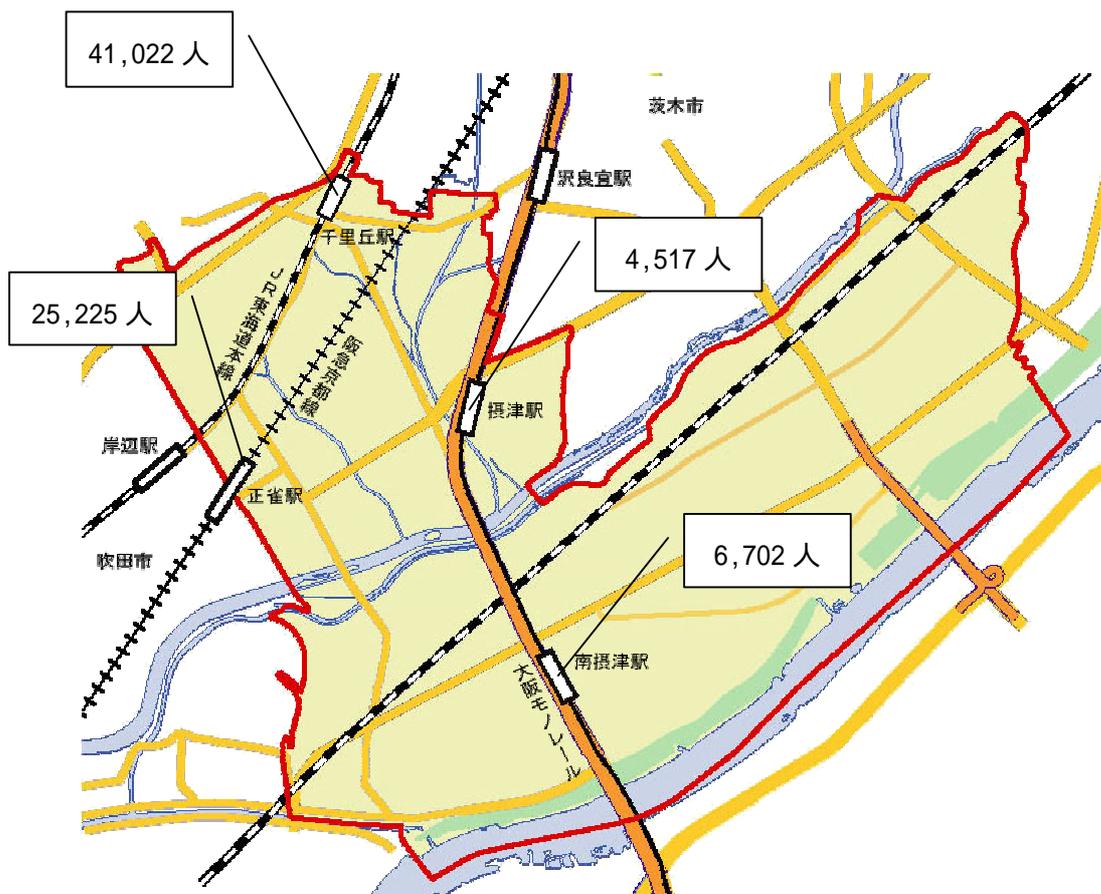


図2 - 7 市内鉄道網と駅の状況

(資料：統計要覧 平成16年3月)

注) 数値は、各駅の乗降者数を示す。ただし、JR千里丘駅の乗降者数については、(乗車人員×2)としている。

表 2 - 8 J R 千里丘駅、阪急正雀駅周辺の概要

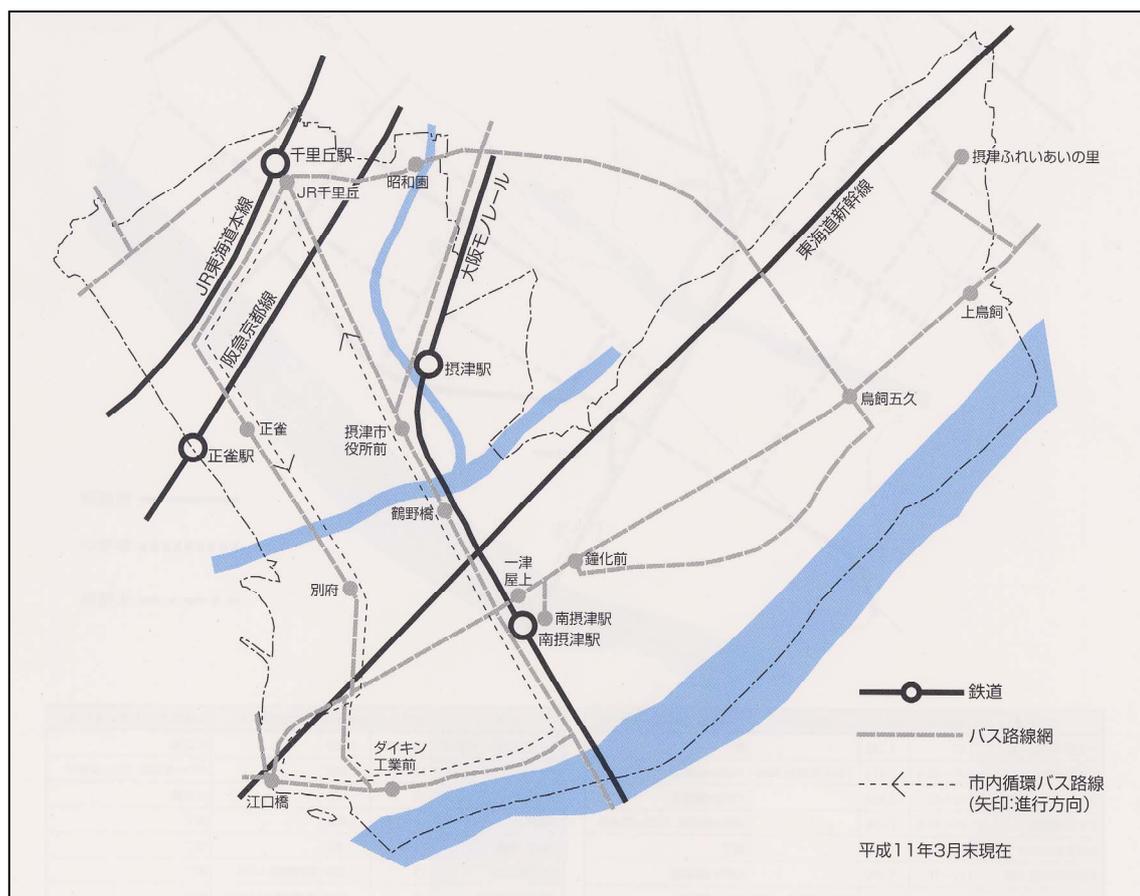
	J R 千里丘駅	阪急正雀駅
乗降客数	41,022 人	25,225 人
バス乗降所	東口：近鉄バス、阪急バス 西口：なし	なし
主な端末交通	バス 10.0% 自動車 2.5% 二輪 26.9% 徒歩 60.6% その他 0.0%	バス 0.8% 自動車 0.3% 二輪 17.3% 徒歩 81.6% その他 0.0%
主な土地利用	商業、住宅	商業、住宅
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J R 千里丘駅前地区市街地再開発事業（完了）</li> <li>・ J R 千里丘ガード拡幅事業（事業施工中）</li> </ul>	特になし

（資料：統計要覧 平成 16 年 3 月）

第 4 回京阪神都市圏パーソントリップ調査（平成 12 年）

## バス

市内を路線バス（近鉄バス・阪急バス）が走る他、市内の鉄道駅間を結ぶ循環バスが運行されていますが、これらバス交通については、慢性的な交通混雑から定時性の確保が十分になされていないことに加えて運行本数が少ない等の問題もあり、利便性が高いとは言えない現状にあります。



自転車（駅前駐輪場等）

阪急正雀駅および大阪モノレール摂津駅・南摂津駅周辺で比較的整備がなされていますが、JR千里丘駅周辺では、依然自転車の収容台数が不足している現状にあります。

	自転車（台）	ミニバイク（台）
J R 千里丘駅	2,919	272
阪急正雀駅	2,144	94
大阪モノレール摂津駅	153	32
大阪モノレール南摂津駅	1,136	108
合 計	6,352	506

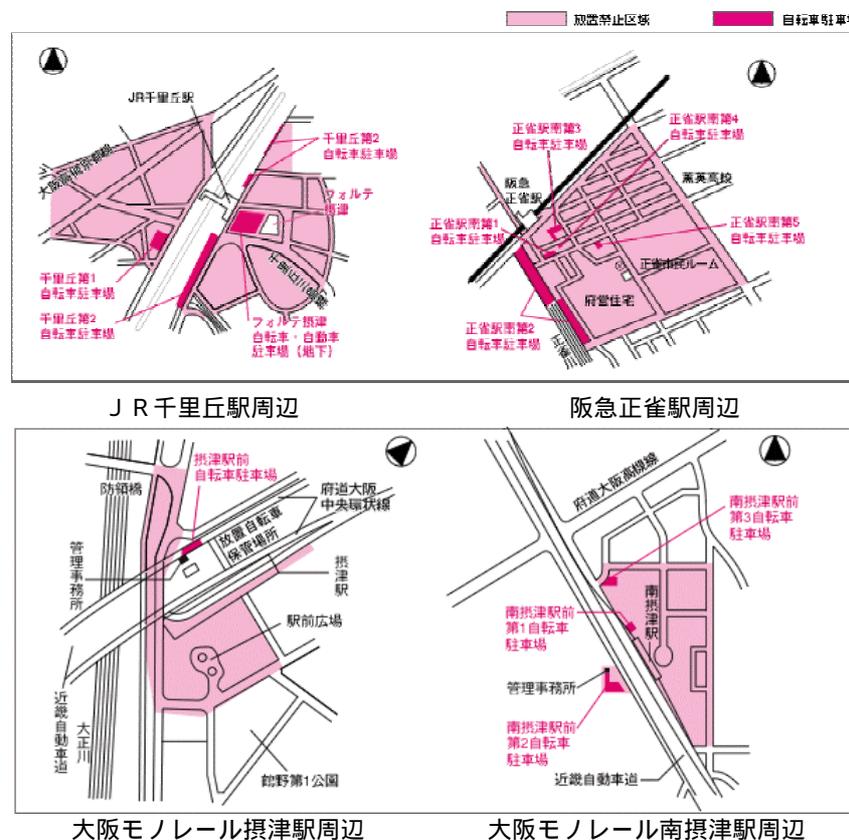


図 2 - 9 駅前自転車駐輪場の整備状況  
（資料：摂津市ホームページ、交通対策課）

自動車（駅前駐車場等）

迷惑駐車をなくして道路交通の円滑化を図るため、JR千里丘駅前と阪急正雀駅前に違法駐車等防止重点地域を定め、また、各駅前に市立自動車駐車場を設置していますが、特に、阪急正雀駅付近においては十分な台数が確保されているとは言いにくい現状にあります。

表 2 - 9 駅前市立自動車駐車場の整備状況

	自動車(台)	備考
J R千里丘駅	217	千里丘自動車駐車場、フォルテ摂津自動車駐車場
阪急正雀駅	14	正雀駅南自動車駐車場
大阪モノレール摂津駅	5	摂津駅前自動車駐車場
大阪モノレール南摂津駅	130	南摂津駅前第一・第二自動車駐車場
合計	366	

(資料：摂津市ホームページ)

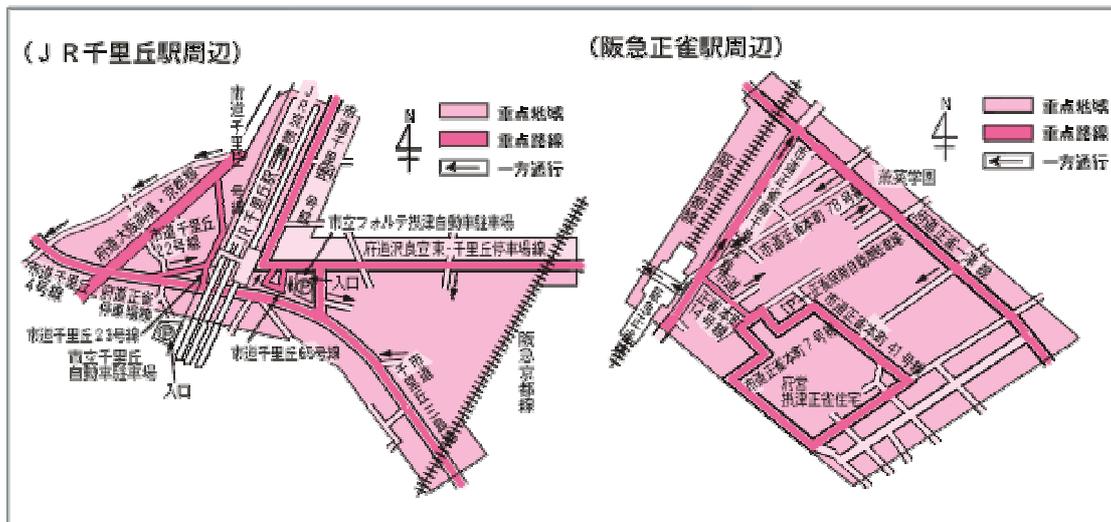


図 2 - 10 違法駐車等防止重点地域

(資料：摂津市ホームページ)

(2) 公共公益施設

公共公益施設は安威川以北に集中しており、特に千里丘三島線沿道には、総合福祉会館、市民文化ホール、摂津警察署など多くが立地しており、シビックゾーンを形成しています。



図2 - 11 公共公益施設の分布状況

(資料：摂津市都市計画マスタープラン(平成12年2月))

\*平成16年11月現在に時点修正している。